

アサヒグループホールディングス株式会社  
2024年12月期第2四半期（中間期）決算説明会 説明概要②

日時：2024年8月8日（木）15：00～16：30

当社登壇者：取締役 EVP 兼 Group Chief Financial Officer 崎田 薫

◆決算ハイライト（売上収益・事業利益）（P13）

- 上半期の売上収益につきましては、各リージョンにおけるプレミアム化の進展や価格改定効果を含む単価向上が継続していることなどにより、全事業で増収を果たし、トータルでは前年比3.8%の増収となりました。
- 事業利益につきましては、市場環境の悪化が継続しているオセアニアは減益となりましたが、各事業での増収効果やコストマネジメントの強化などにより、トータルでは前年比6.2%の増益となりました。
- 上半期の業績予想は開示しておりませんが、売上収益は計画を若干下回ったものの、事業利益では、オセアニアは想定を下回りましたが、日本と欧州、その他の事業などが上回ったことにより、トータルでは計画を上回る進捗となりました。
- 右側に記載しております年間予想につきましては、売上収益は、各リージョンの上半期の進捗などを踏まえ、トータルでは年初予想を259億円下回る、前年比2.7%の増収に修正いたしました。
- 一方、事業利益につきましては、オセアニアは下方修正しましたが、主に日本と欧州を上方修正したことでカバーし、トータルでは年初予想を据え置いております。
- 尚、為替影響込みの年間予想については、売上収益は前年比6.5%の増収、事業利益は前年比8.8%の増益に上方修正しています。各地域の為替影響額などについては、19と20ページに掲載しておりますので、後程ご確認頂ければと思います。

◆営業利益・当期利益（P14）

- 上半期の営業利益につきましては、事業統合関連費用の計上などはありましたが、事業利益の増益により、前年比8.4%増益の1,041億円となりました。
- 「親会社の所有者に帰属する中間利益」につきましては、営業外項目におけるその他の損益改善などにより、前年比16.1%増益の764億円となりました。尚、前年の減損損失を

除いた調整後中間利益では、前年比 15.2%増益の 764 億円となっております。

- 年間予想につきましては、営業利益段階で、事業統合関連費用に加えて「その他」の費用増を見込んでおりますが、為替レートの見直しに伴う事業利益の増益により、営業利益と当期利益は、それぞれ上方修正しております。
- 尚、事業利益からの調整項目は、年初予想比で 135 億円の費用増を見込んでおりますが、主にアサヒグループジャパンの人事制度改革に伴うコストや、海外 RHQ における生産体制の見直しにかかるコストなどを積み上げており、今後の収益改善につながる構造改革費用と捉えて頂ければと思います。

#### ◆BS・CFの概要 (P15)

- バランスシートの年間予想につきましては、資産合計は、円安に伴うのれんや無形資産の増加などにより、トータルでは年初予想を 2,650 億円上回る 5 兆 5,250 億円となる見込みです。
- キャッシュ・フローの年間計画については、年初予想通り 2,250 億円のフリーキャッシュ・フロー創出し、債務返済に充当することで、Net Debt/EBITDA は、年初計画通り 2.70 倍となる見込みです。
- また、昨日に開示しておりますが、今期の株主還元の方針を見直しております。
- 1 株当たりの年間配当金額は、年初予想から 9 円増配の 141 円とすることでガイドラインに掲げている配当性向 40%の達成を一年前倒しすることに加えて、今期 300 億円の自己株式を取得することにより、株主還元の充実化を図ってまいります。詳細は、このあと勝木からご説明させていただきます。

#### ◆日本 (P16)

- 上半期の売上収益は、酒類におけるビールや洋酒などを中心とした、各事業の価格改定効果を含む増収により、トータルでは前年比+1.3%の増収となりました。
- 事業利益は、広告販促費など固定費のコストは増加しましたが、各事業での増収効果などにより、トータルでは前年比+6.3%の増益となりました。
- 計画に対しては、売上収益は、主に酒類におけるビール類の販売数量が未達となり想定を下回りましたが、事業利益は、変動費コストアップの抑制などにより全事業で計画を上回

って進捗しました。

- 年間予想については、売上収益は、主にビール類の販売数量の見直しや外食事業の売却などを踏まえて、トータルでは前年並みに下方修正しております。
- 事業利益は、酒類・飲料における上期の好調な進捗を踏まえ、トータルでは前年比+4.6%に上方修正しております。

#### ◆欧州 (P17)

- 次に欧州につきまして現地ユーロベースの実績でご説明します。
- 上半期の売上収益は、一部にインフレに伴うマイナス影響が見られましたが、プレミアムカテゴリーの成長や Octopi の新規連結効果などにより、トータルでは前年比+6.0%の増収となりました。
- 事業利益は、プレミアム化や価格改定に伴うミックス改善に加えて、変動費を含む各種コストの抑制などにより、前年比+11.1%の増益となりました。
- 計画に対しては、売上収益は、一部地域の需要減少などにより想定を下回りましたが、事業利益は、市況軟化に伴う変動費のコストダウンなどにより計画を上回る進捗となりました。
- 年間予想については、売上収益は、上半期の進捗などを踏まえて、各国の需要見直しを見直したことにより、前年比+5.0%に下方修正しております。
- 事業利益は、ブランド投資の継続や人件費などの固定費はコストアップとなりますが、上半期の好調な進捗を踏まえ、前年比+6.1%に上方修正しております。

#### ◆オセアニア (P18)

- 最後にオセアニアにつきまして、豪ドルベースの実績でご説明します。
- 上半期の売上収益は、市場低迷などに伴いビールの販売は減少しましたが、RTD や炭酸飲料の好調などにより、トータルでは前年比+4.6%の増収となりました。
- 事業利益は、増収効果はありましたが、主にビールの販売数量が減少したことや、原材料など変動費のコストアップ影響により、前年比▲11.7%の減益となりました。

- 計画に対しては、売上収益、事業利益ともに『Great Northern』など主力ビールブランドの減少に伴うマイナス影響により、計画を下回る進捗となりました。
- 年間予想については、売上収益は、上半期の進捗や現状の消費トレンドなどを踏まえ、前年比+5.5%に下方修正しております。
- 事業利益は、マーケティング費用の効率化など各種の効率化を図ってまいりますが、上半期の下振れなどを踏まえ、前年比+1.7%に下方修正しております。